

流行性耳下腺炎の抗体価の推移

第50回全国大学保健管理研究集会 ポスター資料

流行性耳下腺炎の抗体価の推移

—健康調査の罹患歴・予防接種歴—

金沢大学保健管理センター
 ○宮崎 節子, 田上 芳美, 池田 美智子, 亀田 真紀,
 伊藤 大輔, 坪川 俊成, 清水 美保, 足立 由美,
 吉川 弘明, 小泉 順二

背景

本学では2006年度から新生入生に麻疹, 風疹, 流行性耳下腺炎, 水痘の抗体検査を行い, 抗体陰性者に予防接種の勧奨を行っている。

流行性耳下腺炎の定期接種が1993年4月に中止になり, 任意接種に移行したことで, 入学者が保持する流行性耳下腺炎の抗体価に影響が出ている可能性が考えられる。

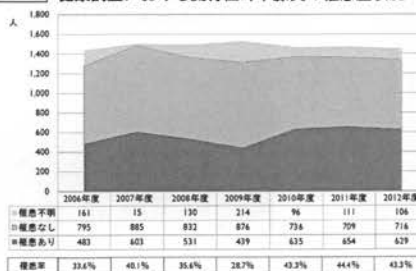
以上より, 大学入学一年生の健康調査結果と流行性耳下腺炎の抗体陰性者がどのように推移しているか検討した。

対象と方法

- 2006年度から2012年度, 定期健康診断時に抗体検査を受けた大学一年新生12,611名(うち18歳入学10,356名)を調査対象とした。
- 入学時提出の健康調査票をもとに流行性耳下腺炎の罹患歴および予防接種歴を調査した。(健康調査で, 未提出や記入もれは, 不明の中を含む。)
- 健康調査の結果と定期健康診断時に測定した流行性耳下腺炎の抗体価(ElA IgG)で4未満を陰性として, 抗体価陰性者数の推移を合わせて検討した。

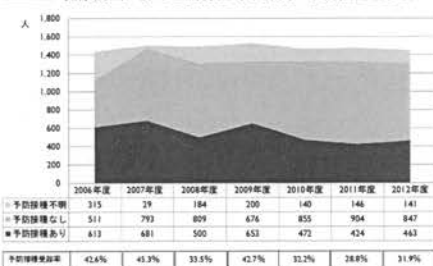
結果1

18歳入学者 健康調査における流行性耳下腺炎の罹患歴状況



結果2

18歳入学者 健康調査における流行性耳下腺炎の予防接種歴状況



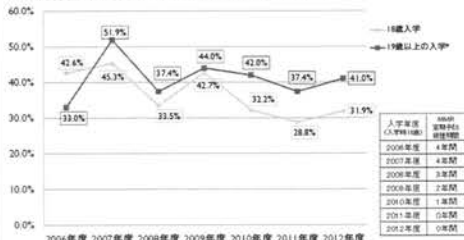
結果3

18歳入学者 「罹患歴あり」と「予防接種歴あり」の比較



結果4

18歳入学及び19歳以上の入学者 「流行性耳下腺炎の予防接種歴あり」の状況



結果5

流行性耳下腺炎の抗体陰性率



結果6



結果7



結果8



結果

- 18歳入学者の健康調査では、2010年度入学者から「罹患歴があり」が増加がみられ、40%台で推移している。「予防接種歴があり」は、2010年度入学者から減少気味で30%台を推移していた。しかし、「予防接種歴があり」の19歳以上の入学者は、2007年度51.9%と高い接種状況を示していた。2006年度を除き40%前後で、18歳入学者より高めに推移していた。
- 年度毎抗体陰性率は、18歳入学者は、2006年度14.1%から徐々に増加傾向がみられ2011年度24.9%まで増加した。
- 抗体陰性率は、男性の方がわずかに多い傾向があった。
- 18歳入学者の抗体陰性率の「罹患歴があり」は、7年間の平均7.4%で、2011・2010年度は、平均より多かった。「予防接種歴があり」の学生は、平均24.5%で2010・2011・2012年度は平均より多かった。

考察

健康調査で、2006年度からの予防接種歴・罹患歴は、2010年度を境に「予防接種歴があり」の割合が減少していた。予防接種が定期接種から任意接種に移行になった時期の入学者は、2011年度入学からになるが、1歳で必ず予防接種を受けるとは限らないため、任意接種になったことで接種率が低下しているものと思われる。「罹患歴があり」についても、2009年度減少がみられたが、2010年度を境に増加その後も微増に推移している。

また、抗体陰性率は年々増加傾向にあり2011年度では、4人に1人が抗体陰性であることから今後、成人での流行性耳下腺炎の流行が起こる可能性があると思われた。